

編 集 後 記

この号が皆様のお手許にとどくころは、各地も厳冬の季節になろうかと思えます。今年は石油不足のこととて、寒冷地の皆様にはご苦勞の多い冬になっているのではないのでしょうか。

さて、この号は脳性麻痺特集の2回目になります。M・サイボルト氏の早期治療に関する論文は、このような早期治療の問題についての実技で、これほど詳細なものは筆者の知る限りにおいてありません。実際に治療に当たられる皆様はもとより、CPに関心を抱く人たちにこそ是非一読をすすめたと思います。また、大変読みやすい日本語にくださった亀山、川口両先生に厚くお礼を申し上げます。

次の梶浦、昇地両先生の論文は、現場での日常のお仕事を反映されたものであり、脳性麻痺のリハビリテーションの現状の困難さと闘っておられる先生方のご努力がにじみ出ているように感じるのには筆者のみではないでしょう。両論文とも、それぞれの立場から、脳性麻痺児に対する今後のあり方について明確な方向を指し示していただいたことで、この論文がより一層皆様方へのご参考になることと思います。

この特集のまとめとして、座談会“職業問題を考える”があります。司会者の小池先生

をはじめ、すべての出席者の方々が、長年この問題に取り組んでこられており、非常に興味ある座談会となりました。出席者の発言にもあるように、脳性麻痺者の問題については、発想をがらっと変えていくことが必要な点が多々あるように思います。この雑誌が、斬新なアイデア、あるいはその実践の報告の場となっていければ大変幸いに思います。

講座は、白木、吉川両先生の第2回目となりました。それぞれの分野の大家である両先生の論文も、リハの分野における基礎知識として皆様方のお役に立つことと思います。

今回、ブックガイドに渡辺英夫先生が、実地的な骨折のリハに関する本を紹介してくださいました。今後、次々に新しい執筆者に登場願うことになります。よろしく願いいたします。

最後になってしまいましたが、「ひと」に登場頂いた大河内先生は、小池先生のご紹介にもあるように、この特集号に最もふさわしい方といえましょう。若い人たちの良き師として、今後のご活躍を期待してやみません。

笹沼先生の巻頭言で頂いた本誌への期待にそむかぬよう、編集子の一人として、今年こそより充実したものと思っております。皆様方のご指導とご協力を心よりお願いいたします。(大川 嗣雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
青 山 孝
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
金 久 卓 也
兼 松 英 夫
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
中 村 裕
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
三 島 博 信
山 内 裕 雄
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
野 本 卓

(以上五十順)
(順、敬称略)

次 号 予 告 (2 巻 3 号)

特 集 リハビリテーション行政

肢体不自由者のリハビリテーションにおける

る行政上の問題点……………国立身体障害センター 橋 倉 一 裕

脊髄損傷のリハビリテーションにおける法

律行政上の問題点……………岡山労災病院 村 川 浩 正

脳性麻痺のリハビリテーションからみた行

政の現状と課題……………鉄道弘済会社会福祉部 手 塚 直 樹

座談会：リハビリテーション行政を考える……………横浜市大 土 屋 弘 吉・他

展 望 γ 系生理の最近の知見

一島津 浩・東大教授講演要旨……………七沢病院 福 井 罔 彦